

【報告事項】

2023年事業報告（第16期）



特定非営利活動法人 高専プロコン交流育成協会

2023年 事業報告書 (第16期)

2023年1月1日から 2023年12月31日まで

特定非営利活動法人高専プロコン交流育成協会

1 事業の成果

2023年は、第34回高専プロコン福井大会（対面開催）への共催、ならびに本協会が主催する第15回国際プロコンへの海外チームの招聘を行い、また、協賛企業さまより複数の講師を招き、全国の高専生向けにシンポジウムを実施するなど産学連携活動で大きな成果を挙げました。

さらに、高専プロコン本選の様子のライブ配信およびプロコンコミック「GO!GO! プロコンガール」を制作し公式サイトで公開するなど、活躍する高専生の様子を広報することができました。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 場所	従事者 の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
高専プロコン 運営事業	第34回全国高専プロコンの 運営（予選）	6月24日	東京都	40名	予選応募学生・ 指導教員なら びに審査委員 約630人	26,122
	第34回全国高専プロコンの 運営（本選）	10月14日 ～ 10月15日	福井県 越前市	50名	本選出場学生・ 引率教員及び 産業界からの 参加者、一般市 民約800名	
国際コンテス ト運営事業	第15回国際プロコン開催	10月14日 ～ 10月15日	福井県 越前市	5名	国外からの 参加学生・教員 約35名	6,602
産学連携事業	高専プロコン連携シンポジウ ム	5月12日、 19日	全国（オン ライン）	10名	教職員・学生な ど約500名	0
広報事業	競技部門 BGM の制作					30
	プロコンコミックの制作					528
					合 計	33,282

2023年事業報告（第16期総括）

2023年は第16期を迎え、昨年に引き続き、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症に配慮しつつ高専プロコンを対面で開催し、交流企画を縮小したものの、大会参加人数の制限をすることなく概ね盛況に大会が実施されたものと思います。併催された第15回国際大会については、海外チームは5年ぶりに対面参加となり、ベトナム、モンゴル、シンガポール、香港、タイの5か国から過去最多の11チームが参加しました。

主な事業活動

【高専プロコン運営事業】

- 2023年6月24日（土）予選審査会 都立産業技術高等専門学校品川キャンパス・ハイブリッド
- 2023年10月14日（土）～15日（日）本選 サンドーム福井（福井県越前市）

	第34回(2023年) 福井大会 ¹		第33回(2022年) 群馬大会 ²	
	チーム数	参加校数	チーム数	参加校数
本選参加者数	1,246		794	
参加学生（含海外）	364		308	
参加学生（選手以外）	67		---	
引率教員（含海外）	101		67	
大会役員、高専関係者	47		31	
後援団体	16		21	
協賛企業	173		99	
審査委員	32		30	
プロコン委員	52		41	
報道関係者	6		3	
小計	858		600	
一般来場者	168		18	
主管校教職員	91		117	
主管校学生	129		59	
応募数	151	62	140	61
課題部門	45	38	43	33
自由部門	51	38	48	37
競技部門	55		49	

- ・ YouTube Live の視聴者数は、下記のとおり（11月1日時点）
 - 開会式 920、特別講演 563、閉会式 1,595
 - 課題部門プレゼン 2,554、自由部門プレゼン 2,429 課題・自由デモ 2,381
 - 競技部門 大会1日目 3,452、大会2日目 2,921

¹ 課題、自由、競技3部門の対面開催

² 課題、自由、競技3部門の対面開催（海外チームはオンライン参加）

第34回(2023年)福井大会受賞校

部門	主な受賞	高専名
課題部門	文部科学大臣賞（最優秀賞） 情報処理学会若手奨励賞 電子情報通信学会若手奨励賞	熊本高専(八代)
	優秀賞	鳥羽商船高専
	特別賞	大島商船高専
	特別賞	香川高専(詫間)
	特別賞	阿南高専
	特別賞	函館高専
自由部門	文部科学大臣賞（最優秀賞） 情報処理学会若手奨励賞 電子情報通信学会若手奨励賞	香川高専(詫間)
	優秀賞	鳥羽商船高専
	特別賞	松江高専
	特別賞	神山高専
	特別賞	久留米高専
	特別賞	大島商船高専
競技部門	優勝	福井高専
	準優勝	熊本高専(熊本)
	第三位	豊田高専
	特別賞	徳山高専
	特別賞	近大高専
	特別賞	都立高専(荒川)

【国際プロコン運営事業】

I. 第15回国際プログラミングコンテスト

➤ 2023年10月14日（土）～15日（日）本選 対面開催

- ・課題部門：モンゴルコーセン技術カレッジ(モンゴル)
- ・課題部門：タイ高専(KOSEN-KMITL/タイ)
- ・自由部門：モンゴルコーセン技術カレッジ(モンゴル)
- ・自由部門：新モンゴル高専(モンゴル)
- ・自由部門：シンガポール・ポリテクニク(シンガポール)
- ・自由部門：キングモンクット工科大学ラカバン校(タイ)
- ・自由部門：タイ高専(KOSEN-KMITL/タイ)
- ・競技部門：新モンゴル高専(モンゴル)
- ・競技部門：香港 VTC(香港)
- ・競技部門：モンゴル科学技術大学(モンゴル)
- ・競技部門：ハノイ工業大学(ベトナム)

部 門	主な受賞	学校名
Themed section	Grand Prize	熊本高専(八代)
	Second Prize	鳥羽商船高専
	Special Prize	モンゴルコーセン 技術カレッジ
	Special Prize	タイ高専
Original section	Grand Prize	香川高専(詫間)
	Second Prize	鳥羽商船高専
	Special Prize	モンゴルコーセン 技術カレッジ
	Special Prize	新モンゴル高専
	Special Prize	シンガポール ポリテクニク
	Special Prize	キングモンクット 工科大学ラカバン校
Competition section	Champion	福井高専
	First Runner-up Prize	熊本高専(熊本)
	Special Prize	新モンゴル高専
	Special Prize	香港 VTC
	Special Prize	モンゴル科学技術大学
	Special Prize	ハノイ工業大学

【産学連携事業】

➤ 高専プロコン連携シンポジウム 2023

(1) 5月12日(金) 16:30~17:00

- 「高専・プロコンでの経験が生きる今 ~CACでの働き方~」
株式会社シーエーシー

R&D本部 高橋 滉一, R&D本部 吉野 瑠, 人事部 鈴木 李実

※ 講演に引き続き、応募説明会を実施

(2) 5月19日(金) 16:30~17:00

- 「アメリカのクラウドサービス ServiceNow の最新動向の現場より」
Blueship 株式会社 代表取締役 慶松 大海

(3) 5月19日(金) 17:00~17:30

- 「さくらインターネットが高専を応援する理由」
さくらインターネット株式会社 執行役員 高橋 隆行

● 事前申し込み数

- のべ46高専 (5/12: 27高専, 5/19: 19高専)

● 参加者アンケート回答数

- 29高専 141名

※ 5月12日(金)は、高専プロコン応募説明会を同時開催

【広報活動事業】

1. 高専プロコン公式サイト、NAPROCK 公式サイト、Facebook、X(旧 Twitter)等の運営シンポジウム、プロコン本選など事業関連の情報を SNS 等通じて公開しました。
2. プロコンコミック
第33回大会特別レポート(1回)を作成・公開しました。(2,3回は近日掲載予定)
第34回大会も取材済み
3. メディアスポンサーの対応
メディアスポンサーとして日本経済新聞社、電波新聞社に協力いただきました。
た、ヤフー株式会社はライブ配信の運営協力をいただきました。

プロコン福井大会（2023年）報道関係リスト

- 日刊県民福井 Web 2023/10/16
- 福井新聞 D刊 2023/10/15 <https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/1891865>
- 日本経済新聞 北陸 2023/10/16
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD163750W3A011C2000000/>
- 第34回高専プロコン福井で開催 - BCN
<https://news.yahoo.co.jp/articles/928ce78d5c9939491fff601791589682e0f59b1a>
- 高専プロコン観戦記 <https://kosen-guide.jp/topics/procon2023.html/> 「高専就職・転職ガイド」
- TV・Youtube 放映 TOKYO MX,三重テレビ 12月予定
- GO!GO!プロコンガール 群馬大会① 2023/4/9
- 情報処理学会 IT 紀行
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/ittravelogmanga/23.html>

- ※ YouTube 高専プロコン #procon34
<https://www.youtube.com/hashtag/procon34>
 - ◇ 開会式(1023)
 - ◇ 課題部門プレゼンテーション(2753)
 - ◇ 自由部門プレゼンテーション(2665)
 - ◇ 課題部門デモンストレーション(671)
 - ◇ 自由部門デモンストレーション(119)
 - ◇ 競技部門1日目(3733)
 - ◇ 競技部門2日目(3181)
 - ◇ 特別講演(613)
 - ◇ 閉会式(1772)
 - ◇ 受賞チームインタビュー(420)
- 全国高専プロコン公式 YouTube チャンネル
 - ◇ 第33回大会 2023/3/2(474)

- ※ X(旧 Twitter)
https://twitter.com/hashtag/procon34?src=hashtag_click

【決 議 事 項】

2 0 2 4 年事業計画（第 1 7 期）



特定非営利活動法人 高専プロコン交流育成協会

2024年事業計画書（第17期）

2024年1月1日から 2024年12月31日まで

特定非営利活動法人高専プロコン交流育成協会

1 事業実施の方針

特定非営利活動に関する事業として、教育界、情報サービス産業界はじめ一般社会人、学生などの不特定多数の層を対象として、全国高専プロコンの運営および国際プロコン大会の開催、産業界と教育界の連携を図るためのセミナーの開催等を計画します。また、広報事業としてプロコンコミックの制作も継続して行います。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 予定 日程	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込み額 (千円)
高専プロコン 運営事業	全国高専プロコンの運営 (予選)	6月	東京都	40名	応募学生・教 員ならびに審 査委員 700人	34,860
	全国高専プロコンの運営 (本選)	10月	奈良県 奈良市	50名	全国高専から のコンテスト 出場学生・ 教員及び産業 界からの参加 者一般市民 約1,000名	
国際コンテス ト運営事業	国際プロコン大会開催	10月	奈良県 奈良市	5名	国外からの参 加学生・教員 35名	7,000
産学連携事業	産学連携シンポジウム	4月	全国 (ネット 配信)	10名	高専教職員な ど約500名	130
広報事業	プロコンコミックの制作					500
合 計						42,490

第 35 回全国高等専門学校 プログラミングコンテスト開催概要（案） 「まほろばの地で古都ロジータ開花」

1. 主 催 一般社団法人 全国高等専門学校連合会 （国公立高専の連合組織）
2. 共 催 特定非営利活動法人 高専プロコン交流育成協会（NAPROCK）
3. 後援（予定）
文部科学省，総務省，経済産業省，警察庁，デジタル庁，奈良県，奈良県教育委員会，大和郡山市，大和郡山市教育委員会，奈良県商工会議所連合会，一般社団法人ソフトウェア協会，一般社団法人情報処理学会，一般社団法人電子情報通信学会，一般社団法人教育システム情報学会，国立研究開発法人情報通信研究機構，一般社団法人デジタル地方創生推進機構，奈良県立産業技術センター，NPO 法人ITジュニア育成交流協会，NHK，奈良テレビ，奈良新聞社，朝日新聞社，毎日新聞社，日刊工業新聞社，奈良工業高等専門学校後援会，奈良工業高等専門学校同窓会
4. 主 管 校 奈良工業高等専門学校
5. 応募資格 国公立高専の学生 （専攻科生を含む）
6. 協 賛 特別協賛・一般協賛 40 社以上を予定
7. 募集部門 パソコン等で実行可能なソフトウェア環境のもとで以下の 3 部門で競います
(1) 課題部門 「ICTを活用した環境問題の解決」をテーマにした作品
(2) 自由部門 自由なテーマで独創的な作品
(3) 競技部門 与えられたルールによる対抗戦
8. 募集期間： 2024 年 5 月 13 日（月）～20 日（月）
9. 予選（書類による審査）
日 時 2024 年 6 月 22 日（土）
会 場 東京都
10. 本選（プレゼン・デモ等による審査，競技は対抗戦）
日 時 2024 年 10 月 19 日（土）～ 10 月 20 日（日）
会 場 なら 100 年会館(奈良市三条宮前町 7 番 1 号)
11. 表彰
(1) 課題・自由部門（各々）
最優秀賞 優秀賞 特別賞
(2) 競技部門
優勝 準優勝 第三位 特別賞
(3) 最優秀賞および優勝チームには，文部科学大臣賞，情報処理学会若手奨励賞並びに電子情報通信学会若手奨励賞が授与されます
(4) 協賛企業から選ばれたチームには，企業賞が授与されます
12. 備考
本大会と同時に第 16 回 NAPROCK 国際プログラミングコンテストを実施
高専プロコン公式サイト：<http://www.procon.gr.jp/>
NAPROCK 公式サイト：<http://www.naprock.jp/>
高専プロコン X(旧 Twitter)公式アカウント：[@KosenProcon](https://twitter.com/KosenProcon)
高専プロコン 公式 Facebook ページ：<https://www.facebook.com/KosenProcon/>

第 16 回 NAPROCK 国際プログラミングコンテスト 大会概要（案）

(The 16th NAPROCK International Programming Contest, Nara, Japan)

- 主催 NPO 法人 高専プロコン交流育成協会
- 共催 一般社団法人 全国高等専門学校連合会
- 後援・協賛 全国高専プログラミングコンテストに準じます
- 応募資格 日本：国公立高専の本科生および専攻科生
(全国高専プログラミングコンテスト本選に参加する者)
海外：大学生 (NAPROCK, 各高専等が招聘する者, 選抜を行なう場合があります)
- 募集部門 (高専プロコンに準じる)
パソコン等で実行可能なソフトウェア環境のもとで以下の 3 部門で競います
(1) 課題部門 「ICT を活用した環境問題の解決」をテーマにした作品
(2) 自由部門 自由なテーマで独創的な作品
(3) 競技部門 与えられたルールによる対抗戦
- 募集期間 2024 年 5 月 8 日 (水) ~ 2024 年 5 月 29 日 (水)
- 審査方法・日程
方 法：課題・自由部門はプレゼンおよびデモによる審査, 競技部門は対抗戦
(新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み, オンライン開催とする可能性があります)
日 時：2024 年 10 月 19 日 (土) ~ 10 月 20 日 (日)
会 場：なら 100 年会館(奈良市三条宮前町 7 番 1 号)
審査委員：全国高専プログラミングコンテストに準じます
- 表彰

(1) 課題・自由部門 (各々)	国際最優秀賞 Grand Prize	国際優秀賞 Second Prize	国際特別賞 Special Prize
(2) 競技部門	国際優勝 Champion	国際準優勝 First-Runner-up Prize	国際特別賞 Special Prize
- 応募要項

http://www.naprock.jp/	(NAPROCK 公式サイト)
https://www.facebook.com/naprock2008	(NAPROCK Facebook ページ)
http://www.procon.gr.jp/	(プロコン公式サイト)
- その他
 - 第 35 回全国高専プログラミングコンテストと同時開催とします
 - 高専プロコン委員会および主管校が運営に協力します

産学連携事業概要（案）

1. 産官学連携事業の狙い

ICTに関する産業界、官庁、全国の高等専門学校との連携を促すためのサポートを行います。内容はICT業界に関する講演会、産官学連携の実践講座、学校においてICT業界の業務内容、必要な知識、技術などについての説明を行う場のサポートなど、産官学の交流の場を設けます。インターネット中継を使った産学連携シンポジウムを行います。

- (1) NAPROCK 主催、あるいは共催の講演会
- (2) 地域の高専地区の近くで NAPROCK がサポートする交流の場の提供
- (3) 希望高専に対して、ICTに関する実践講座（あるいはサポート）の実施

このため産業界の方、学識経験者、実務経験者、高専OB、高専教員OBの方の協力を得ながら、広く高専学生、高専教員および高専関係者等に有意な実践知識を持ってもらうことを狙います。

2. 事業内容

・産学連携シンポジウム実施

日 程：2024年4月（予定）

内 容：YouTube Liveにより全国の高専生にライブ配信（アーカイブ配信も予定）

※高専を会場としたオンサイト（ハイブリッド形式）も検討します。

広報活動事業概要（案）

1. 事業の目的

公式ホームページ等により、本 NPO の活動を広く周知します。

2. 事業の概要

2-1 各事業に関する情報の掲載

本 NPO の事業の実施と連携して記事を掲載し、継続的な内容の更新を行います。

(1) プロコン事業・国際プロコン事業

- プロコン募集要項の公開・周知
- プロコン本選に伴う結果の迅速な公開
- マスコミ掲載などの資料整理

(2) 高専連携シンポジウム

- X(旧 Twitter)による意見・質問の集約
- アンケートの集計

(3) GO!GO!プロコンガールの制作

高専プロコンを題材に作品を作成します。

2-2 その他

- コンテンツの充実、SNS の活用を進めます。

